

■大田区地域福祉活動計画実績報告 総括表

基本理念	基本目標	取組	チャレンジ目標	令和2年度実績報告等	令和3年度の方向性・今後の進め方
互いに結びあい 共に支えあう まち	丸ごと支える支援の輪をつくりまします	地域に出向き、生活課題を早期に発見します	地域担当と地域福祉コーディネーターによる相談対応件数5年間で100件増加  (平成30年度：179件)	個別相談支援 213件 地域相談支援 386件	大田区の地域ささえあい強化推進員8名を社協執務室へ受入れ、13名の体制で、名称・役割の統合によるチーム力を生かした動きを強化していきます。
			地域福祉コーディネーターが個別相談支援に取り組む。	地域に不足する子どもたちの居場所を、地域との協働により展開。 ①のびのび事業（不登校児の居場所） ・実施回数：4回 ・参加者：29名 ②わくわくホーム（学校の長期休み中の居場所） ・実施回数：2回 ・参加者：11名	地域福祉コーディネーターが、個別ニーズ、地域ニーズを拾いながら、地域との連携協働により、地域の課題解決の取組みを検討、生み出していきます。
		関係機関や地域活動団体と協働して生活課題の解決に向けて包括的に取り組みます	生活福祉資金の貸付件数年間80件  (平成30年度：74件)	特例貸付の状況報告	現在、令和3年8月末までで貸付申請を終了する旨の通知が発せられてますが、感染状況により期間の延長等の可能性があります。また、新たに債権管理等の業務が発生します。今後の状況に合わせ、引き続き相談対応を継続します。
			地域福祉コーディネーターの関係機関への認知度50%	①様々な関係機関、団体等へのあいさつ回り ②周知カードを作成し、食料支援の際に同封。 ③社協広報誌への活動掲載。	あらゆる地域との協働による活動を通じて、コーディネーターの役割、名称の認知度を上げていきます。区民にとって身近な頼れる存在を目指します。
	思いがたがり活動が継続するように取り組みます	区民の活動参加や地域活動団体等の活動継続を支援します	地域の支えあいの担い手登録者数の増 (平成30年度：200名)	絆サポーター数（生活支援の担い手）：300名 個人ボランティア：90名 団体ボランティア：87名	登録者の活躍の場を広く展開し、他者に関わるボランティア活動の価値を向上することで、結果的に登録者増につながっていくことを目指します。
			地域の福祉活動に寄与する地域福祉活動団体数を1.5倍にする。	【連携ボランティア団体】 地域福祉活動団体：60団体 つどいの場団体：100団体 【連携企業】 20企業 (ボランティアコミュニケーション6.7月号参照)	ボランティア団体と地域貢献活動を推進する企業との橋渡しをし、お互いの強みを引き出しあうような関係性をつないでいきます。
			米1トンプランのような誰もが気軽に地域に貢献できる新しい事業を提案	①フードドライブ事業 ②あいちゃんマスク（手作りマスク） ③手作り雑巾ボランティア ④使用済切手の整理ボランティア ⑤インクカートリッジの回収	こどもから高齢者に至るまで、あらゆる世代の方が、地域のための自分自身ができる少しのことができることを多く提案していきます。

基本理念	基本目標	取組	チャレンジ目標	令和2年度実績報告等	令和3年度の方向性・今後の進め方
互いに結びあい 共に支えあう まち	思いがつながり活動に動取が継続しますよ	地域活動団体相互のつながりをつくります	地域とつくる支援の輪プロジェクトの全体会への参加者数を5年間で倍増 (平成30年度：50名)	・こども1000人アンケート (参加者：3124人) ・大人アンケート (参加者：170人) ・区民啓発用パンフレットの作成	本事業は、区が主体となり、より多くの行政機関や民間団体を巻き込み、具体的な地域での子どもたち、家庭を支える取組みを生み出す場となります。
			災害ボランティアバンクの登録者を50名とする。 (平成30年度：未登録)	①災害ボランティア体験会 実施日：令和2年11月14日 (参加者：37名) 実施日：令和2年12月10日 (参加者：21名) ②災害ボランティアバンク登録 個人登録者数：25人 団体登録者数：2団体	各地域の避難所運営組織との連携を強め、災害時の生活再建ニーズの円滑な災害ボランティアセンターへの連携を図れる仕組みを構築していく。
	助けあい支えあいが実感できる地域をつくります	地域住民の助けあい支えあいによる予防的福祉に取り組みます	助け合いプラットフォームを5年間で9か所以上立ち上げる (平成30年度：1か所)	蒲田西助け合いプラットフォームの開催 ◇開催回数 2回 ◇参加人数 延93名	各地域によって、活動団体同士のネットワーク強化や活動支援を目的としたものや住民そのものに直接アプローチを行っていくものと地域の実情を見極めながら展開を進める。
		地域福祉を支える人の育成に取り組みます	おおた福祉カレッジの人材育成プロジェクトを年2回実施(平成30年度：1回)	ふくしのしごと市(11月28日) 参加者数：68名 採用者数：5名	区内の社会福祉法人と協力しながら、福祉人材の確保に取り組む。また、オンライン等を活用しながら、法人間の情報交換の機会を増やし、情報共有を図る。
			福祉教育の推進事業を年12回以上実施 (平成30年度：年6回)	ユニバーサルスポーツ体験事業の実施。 区民に対し、無料でユニバーサルスポーツ用具(ポッチャ、カーレット)と講師をセットで、無料で派遣する事業を実施。(年6団体)	サロンの場や福祉教育の一環として取り入れてもらうことを推奨し、拡充を図ると同時に、学校機関へは、この機会に地域共生の情宣・啓発を進める。
			複雑化する福祉課題に対応する人材を育成するための研修体系を構築する。	人材育成基本方針に基づき、研修体系づくりとトライアル研修を実施。 新任研修：4日間 中堅職員研修・リーダー研修：各1日 地域福祉コーディネーター研修：年6回	研修体系に基づき、組織活動面と福祉専門職としての両側面から人材育成を図る。
		助けあい支えあいを通して、包括型社会づくりに取り組みます	社会福祉法人のネットワークによる地域課題の解決を目的とした地域公益的な取組みを5年間で4つ展開	ひとり親家庭の児童を対象にした『れいんぼう事業』を実施。 れいんぼう大森 ・年18回、延べ85名 れいんぼう久が原 ・年18回、延べ111名	社会福祉法人の強みを生かした地域課題解決に向けた地域ニーズにあった取組みを、展開していきます。
	就労支援のために、高齢者等を企業へ紹介する紹介状の発行件数 年間500件 (平成30年度：408件)		高齢者等を企業へ紹介する紹介状の発行件数303件	利用高齢者の就職向上を目指した窓口相談に徹する事を掲げ紹介事業を展開する為、求職者のニーズに合った職種を丁寧に聞き取り相談を進め、一人でも多くの求職者へ紹介状の発行と就労支援を継続的に行う。	

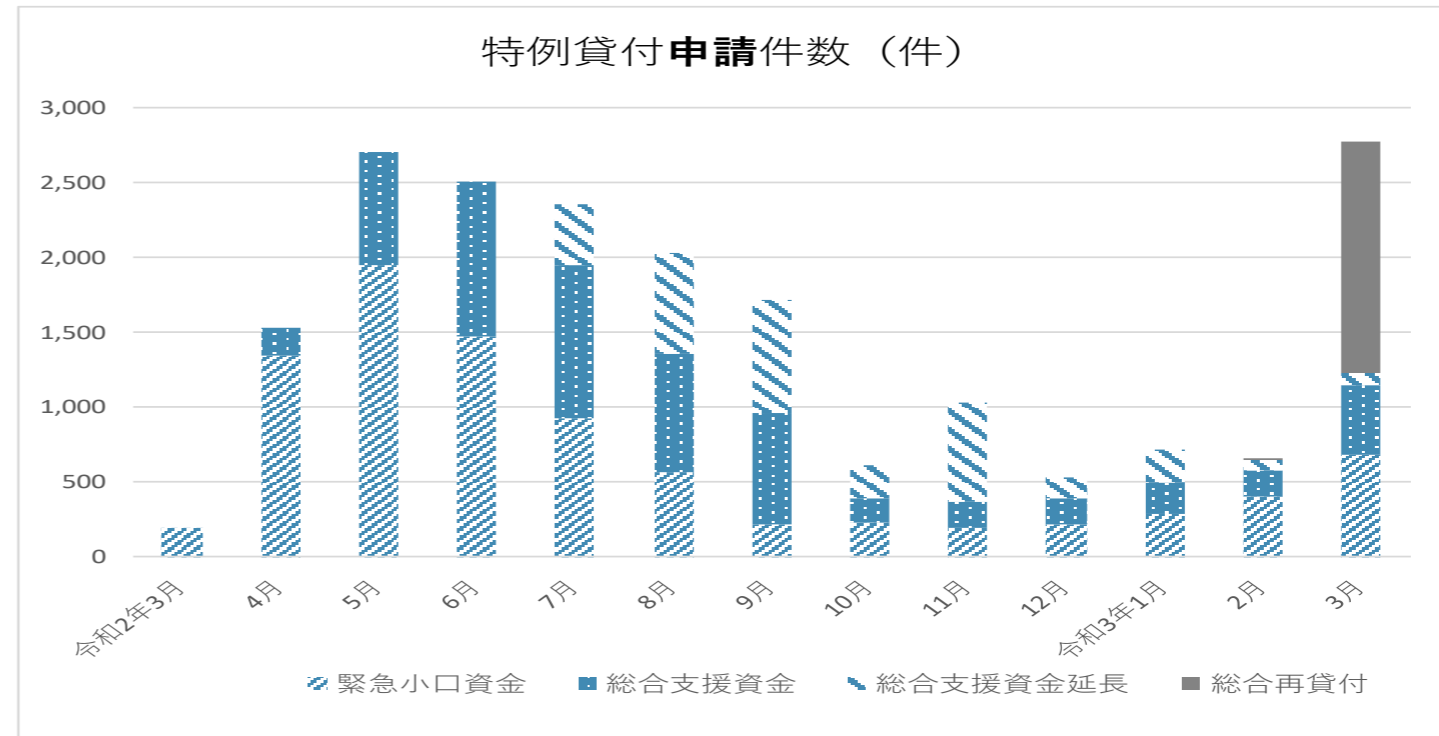
基本理念	基本目標	取組	チャレンジ目標	令和2年度実績報告等	令和3年度の方向性・今後の進め方
互いに結びあい 共に支えあう まち	権利擁護の推進機関としての役割を果たします		5年後の訪問相談件数 年間280件  (平成30年度：193件)	令和2年度訪問相談件数（延べ） 962件	成年後見制度利用促進のための中核機関として、意思決定を重視した本人支援のみならず、後見人等を含む様々な分野・職種が連携した「チーム」への支援を行います。
		地域に出向き、権利擁護の早期支援につなげます	5年間の新規受任件数 法人後見 25件 後見監督 20件  (平成30年度：法人後見26件、後見監督7件)	▶令和2年度新規受任件数 法人後見 5件 任意後見発効 1件  ▶令和2年度終了件数 法人後見 4件 後見監督 1件 (令和2年度末現在：法人後見25件、後見監督4件、任意後見契約8件、任意後見発効3件)	法人に蓄積された知識や経験、ネットワークを活かし、きめ細やかで安定した法人後見業務を継続的に進めます。
			親族後見人への個別支援 40件  (平成30年度：2件)	令和2年度親族後見人への個別支援（延べ）30件	・専門職と連携した親族後見人交流会の実施により、適切な後見業務を行うためのアドバイスや情報交換等を行います。 ・家庭裁判所への定期報告時のサポートなど継続した支援に取り組みます。
		権利擁護の推進を強化します	5年間の社会貢献型後見人養成講習修了者数 25名  (平成30年度：7名)	社会貢献型後見人養成講習修了者数8名	・養成講習や実務実習を通じて、成年後見人として必要な知識や姿勢を修得し、同じ地域に暮らす住民の目線で、本人に寄り添った支援を行うことのできる支援者の育成に取り組みます。 ・専門職と連携し、相応しい受任ケースへのマッチングに取り組みます。
			権利擁護支援の中核機関として、専門職団体や関係機関との連携体制を構築	中核機関について実施状況報告	・成年後見制度利用を必要としている方に支援が届くよう、制度の周知啓発や関係機関・団体、専門職等との地域連携ネットワークの充実に取り組みます。
		成年後見制度の周知啓発を進め、老いじたく相談や支援に取り組みます。	成年後見制度出前講座 年間20件以上  老いじたく出前講座 年間30件以上	老いじたく相談の実施状況報告	・成年後見制度の正しい理解と相談窓口の周知により、早期に相談がつながるよう地域へ出向きます。 ・老後の暮らし方や財産の整理、遺言の作成など、自身の将来に向けて、自ら備えるきっかけづくりを行います。

令和2年度特例貸付【緊急小口資金、総合支援資金】実績表

大田区社会福祉協議会

1.特例貸付申請件数（件）

	緊急小口資金	総合支援資金	総合支援資金延長	総合再貸付	合計
令和2年3月	193	0	0	-	193
4月	1,347	189	0	-	1,536
5月	1,954	757	0	-	2,711
6月	1,470	1,044	0	-	2,514
7月	926	1,030	399	-	2,355
8月	572	790	675	-	2,037
9月	222	741	756	-	1,719
10月	226	164	226	-	616
11月	198	168	665	-	1,031
12月	214	180	134	-	528
令和3年1月	284	219	212	-	715
2月	405	174	71	4	654
3月	684	465	84	1,546	2,779
合計	8,695	5,921	3,222	1,550	19,388



2.特例貸付相談件数（件）

	来所	電話	合計
令和2年3月	278	402	680
4月	1,633	5,224	6,857
5月	1,531	6,462	7,993
6月	1,367	6,950	8,317
7月	1,585	6,979	8,564
8月	1,489	6,215	7,704
9月	1,284	4,958	6,242
10月	795	3,693	4,488
11月	951	3,370	4,321
12月	617	2,847	3,464
令和3年1月	573	3,193	3,766
2月	1,470	6,885	8,355
3月	1,901	11,924	13,825
合計	15,474	69,102	84,576

